

Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



Developed by Brainworx in partnership with Friedman Amplification and
Distributed by Universal Audio.





Friedman Buxom Bettyギターアンプは、ロックンロールからブルースに至るまでアメリカンとブリティッシュ・アンプの穏やかなクリーンからパンチのあるクランチサウンドまでの様々な音色を、1つのチャンネルで提供します。FenderのBlackfaceとMarshallのPlexiスタイルの回路を独自に組み合わせ、EL34チューブを使用したパワーアンプボリューム・ノブを調整するだけで簡単に音色を変えることができます。3バンドEQ、プレゼンスノブ、ブライトネススイッチ、ハイ/ロー・センシティビティの切り替えなど機能を搭載したオンボード・トーンコントロールを使用するとすぐに理想のサウンドが得られます。Buxom Bettyは、ブースト、オーバードライブ、フェイザー、フランジャー、トレモロ、ワウなどのペダルを使用したサウンドメイクにも威力を発揮します。

Dave Friedman自身と共同開発を行い、プラグイン形式でこのモダンな人気アンプをモデリングし、すべての音色をDAW内で再現できるようになりました。オリジナルのハードウェアの基本的なコントロール以上に、ビンテージディレイ、ノイズゲート、タミングピックアップ、ボディーノイズのフィルタリング、低音量時に高いゲインでのプレーを可能とするパワーソーク、100種類のレコーディングチェーンを持つ“Brainworx Advanced IR Technology”を特徴とするフラッグシップ・アンプFXラックを搭載しています。これらのレコーディングチェーンは、様々なブティック・ギターアンプをビンテージやモダンなマイクを使い、ハイエンドのアウトボード機材で処理された後、Neve® VXS™ コンソールでミキシングしています。このノウハウと卓越したオーディオエンジニアリングの組み合わせによって得られる様々な音色は、すぐレコーディングに使えるようなサウンドを提供しています。

当社のエンジニアは、コンポーネントレベルのモデリングとUniversalAudioの



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



Unisonテクノロジーを組み合わせたApolloインターフェイスと使用することにより、オリジナルのBuxom Bettyアンプの正確な音色とフィーリングを再現することに細心の注意を払いました。ApolloのHi-Z入力にプラグインするとハードウェアアンプと同じサウンドで演奏が可能です！Apolloのニアゼロ・レイテンシートラックリングに加え、Buxom Bettyの驚くほどリアルなシミュレーションは、物理的なギターアンプで演奏していることと同じクオリティ提供します。

このプラグインの主な用途は以下の通りです。

- 環境の良いルームや高価なギターマイクを必要とせずあらゆるボリュームで、エレキギター・トラックのレコーディングが可能です。
- エレキギターをDAWに直接レコーディングし、そのままDAW環境から出ることなくエディット、プロセッシング、ミックス可能です。
- 他のギターアンプで以前にレコーディングした完全ではないトラック完璧なギタートラックにリアンプすることができます。
- 偉大なギタリストによって使用された人気のあるエレキギタートーンを忠実にエミュレートしています。
- 大音量を必要とすることなくハイゲインサウンドを得ることができます。
- Apolloの低レイテンシーモニタリングを使用して演奏する時は、物理的なアンプで演奏しているようなレスポンスやフィーリングで演奏することができます。

Unisonテクノロジー

Friedman Buxom Betty プラグインは、Apolloシリーズのインターフェイスで使用することを念頭に開発され、Unisonプリアンプテクノロジーに対応しています。もちろんThe Fuchs Train IIは、他のUAD-2デバイスでも動作しますが、重要な要素であるインピーダンス、リアルなアンプの“スウィートスポット”やサーキットの動作などの超低レイテンシーを体感するには、Apolloインターフェイスが必要です。これを行うには、ApolloのConsoleアプリケーションのプリアンプインサートにFriedman Buxom Bettyをインサートする必要があります。これはあなたの経験を大幅に向上させ、サウンドのトーンや動作を物理的なギターアンプのように動作させます。





Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



ベーシック

このプラグインは、本物のBuxom Bettyアンプを使う時とまったく同じです。最初にディストーションセッティングを好みの位置に設定するために入力を選択します。‘L’を選ぶとクリーンなトーンが得られ、‘H’を選ぶとクランチサウンドが得られます。プレゼンスの設定は、‘5’から始めると良いでしょう。そしてベース、ミドル、トレブルなどのトーン設定をお好みに応じて調節してください。

Buxom Bettyプラグインは、Apolloシリーズのインターフェイスで使用することを念頭に置いて開発されました。もちろん、どのUAD-2デバイスでも使用することはできますが、超低レイテンシーを体感するには、Apolloインターフェイスが必要になります。

最短のレイテンシーでドライのギタートラックをレコーディングするには、可能な限り最高のクオリティのギターをApolloのhi-zインプットに接続するか、ハイクオリティのDIとマイクプリアンプをApolloのLINE入力に接続してください。

Consoleソフトウェアのインサートエフェクト・スイッチ

できるだけ少ないレイテンシーで使用するために、ConsoleソフトウェアのミキサーにBuxom Bettyプラグインをインサートした場合、プラグインによってプロセッシングされたサウンドをレコーディングする(Consoleソフトウェアのインサートエフェクト・スイッチを“REC”に切り替える)かどうか決めることができます。

もちろんトラッキング中にプラグインのサウンドをモニターしながら、ドライ音をレコーディングすることも可能です。その場合、Consoleソフトウェアのインサートエフェクト・スイッチは、“MON”に切り替えてください。

プロセッシングされたサウンドをモニタリングのみに使用する利点は、ミックスダウン中にアンプやエフェクトの設定を柔軟に変更することができる点です。後でゲインやディレイを曲のイメージに合うように調整したくなった場合、この設定は有利です。

プロセッシング後のギタートラックをレコーディングする利点は、ミックスダウン時にプラグインを使用せずに済むので、DSPの負荷を抑え、その分その他のプラグインを使用できるようになります。レコーディングしたギタートラックにEQやコンプレッサーなどのエフェクトを加えることができます。“自分のサウンド”が出来上がっていたら、プロセッシング後のギタートラックをレコーディングして時間の節約をすることができます。



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



アンプ

1 Power(パワー)

Buxom Bettyプラグインのバイパスを行います。プロセッシング前/後の信号を比較するために使用することができます。

2 Presence(プレゼンス)

高中域や高域が加えられます。目盛りの5から調整をスタートすることをお勧めします。

3 Bass(ベース)

低域、ボトムエンドのコントロールを行います。アンプのボリュームを上げていくと低域成分が大きくなるので、少し下げると良いでしょう。目盛りの5から調整を始め、お好みの位置に合わせてください。

4 Middle(ミドル)

中域をコントロールを行います。7~8ではじめ、低いセッティングでは中域を抑え、高いレベルではミックス内でギターの存在感を高めます。

5 Treble(トレブル)

高域のコントロールを行います。5から始め、お好みの位置に合わせてください。

6 Volume(ボリューム)

Buxom Bettyのマスターボリュームです。上げるほどボリュームがゲインや歪みを加えながら大きくなります。お好みの位置に調整してください。

7 Bright(ブライト)

アンプ全体のブライトネスを切り替える3ポジションスイッチ

8 Input Selector High & Low(入力セクターハイ/ロー)

Buxom Bettyの2つの独立したインプットは、クリーン、またはディストーションサウンドのどちらをアンプから得るかによって選択します。

- H(ハイインプット): 高いゲイン(歪み)に最適な感度の高いインプットです。
- L(ローインプット): 感度の低い入力、クリーントーンに最適です。



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



FX ラック

ノイズゲート

1 Closed(クローズ)

このLED が点灯しているときは、ノイズゲートが閉じていることを示します。これは、ギターのスグナルがスレッシュホールド値よりも低くなり、ノイズゲートが、RANGE コントロールで調節した値の分、アンプからアウトプットを減衰させます。(上図では15dB)

2 Noise Gate on/off(ノイズゲート・オン/オフ)

ノイズゲートのオン/オフを切替えます。スイッチが上向き(“ON”)でノイズゲートが有効になります。

3 Threshold(スレッシュホールド)

連続可変ノブ(−120db ~ 0db)：ノイズゲートは、ギターからのシグナルが一定のレベルを下回るとアンプのアウトプットシグナルを減衰させます。このレベルのことを“スレッシュホールド”と言います。オーバードライブしたアンプのノイズが軽減されるようにスレッシュホールドを調整しますが、フェードアウトしていく音やコードのサウンドに影響がないように調整してください。

4 Range(レンジ)

連続可変ノブ(0db ~ 100dB)：インプット・シグナルがスレッシュホールドを下回った場合、アンプのアウトプット・レベルを減衰、またはミュートします。その減衰値をコントロールします。最大値ではアウトプットを完全にミュートすることができます。

アンプリファイアー

5 Tight Filter(タイトフィルター)

3段階切り替え式(Pre、Post、Off)：タイトフィルターを使用すると、DIギター・シグナル(PRE)、またはプロセッシングしたアンプのサウンド(POST)、いずれかの低域をカットすることができます。

- **Pre:** ギターのピックアップからのサウンドで低域がもたつく場合、アンプに入力する前にローエンドをフィルタリングすることができます。
- **Post:** アンプセッティングで発生したローエンドをカットしたい場合、このスタジオクオリティのハイパス・フィルターを使用することができます。
- **Off:** オフに設定するとタイトフィルターはバイパスされます。



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



1 Tight Frequency(タイトフリークエンシー)

タイトフィルターを使用する際にカットする低周波数帯の周波数を設定します。

2 Smooth Frequency(スムースフリークエンシー)

スムースフィルターを使用する際にカットする高周波数帯の周波数を設定します。

3 Smooth Filter(スムースフィルター)

3段階切り替え式(Pre、Post、Off)：スムースフィルターを使用すると、DIギターシグナル(PRE)、またはプロセッシングしたアンプのサウンド(POST)、いずれかの高域をカットすることができます。

- Pre: ギターのピックアップからのヒスやノイズが多く感じる場合、アンプに入力する前にハイエンドをフィルタリングすることができます。
- Post: アンプセッティングで発生したハイエンドの一部をカットしたい場合、このスタジオ・クオリティのローパスフィルターを使用することができます。
- Off: オフに設定するとスムースフィルターはバイパスされます。

Delay(ディレイ)

レトロなディレイサウンドの本質をとらえるために、ビンテージ・ストンプボックスを忠実にモデリングしました。制限されている周波数帯域幅とリピート時の高域の減衰は、サウンドにより真実味を与えます。それ以外に、ミックスパラメーターや、DAWと同期可能なbpm / テンポシンクなど現代の機能も追加されています。コーラス、フランジャー、リバーブやその他のディレイのような外部エフェクトをお好きなギターサウンドで使用することもできますが、すぐに使用できるディレイは、サウンドを探するときやパッチを作るときに非常に便利です。例えば、ディレイのフィーリングを得ずに新しくリードサウンドのパッチを試すことは現実的ではないので、このようなケースではとても便利だと言えます。

4 Delay On/Off(ディレイ・オン/オフ)

ディレイとそれに関するパラメーターのオン/オフを切り替えます。

- スイッチが上向き: ディレイはオン
- スイッチが下向き: ディレイはオフ



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



1 Tap(タップ)*

マウスでタップボタンをリズムカルにクリックすることで、ディレイタイムを調整することができます。これは、曲のテンポが一定ではないときや、実験的なディレイタイムを試したいときに便利です。

2 Time(ディレイタイム)

ディレイタイムを15ms ~ 1000msの間でミリセカンド単位で調整することができます。

3 x2*

ディレイタイムを2倍にします。

4 /2*

ディレイタイムを半分にします。

x2 & /2 ボタン

400msの最大ディレイタイムを超えていない限り、両方のボタンは繰り返しの使用が可能です。

5 Host BPM(ホストBPM)

GUI上でBPM数をクリックするとプルダウンメニューが開き、二分音符、四分音符、三連符などの値を選択できるようになります。すべての値は、BPMウィンドウに表示されているテンポに基づいています。テンポは、DAWで指定したテンポと自動的に同期します。

6 Mix(ミックス)

ドライ/ウェットシグナルのミックス値をコントロールします。控えめなディレイが必要な場合は約10%をお勧めします。濃いエフェクトが必要な場合は、50%以上の設定を試してください。

7 Feedback(フィードバック)

ディレイサウンドのリPEAT回数をコントロールします。99%の設定では、ほぼ無限のディレイループが得られますが、一般的なリードサウンドでは25%前後の設定をお勧めします。

*注:オートメーションできないカスタムコントロールです。



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



1 Lo-Fi

ディレイ信号にクリエイティブなローファイ効果を与えます。内部ディストーション量、リサンプリングのクオリティなどをコントロールすることができます。値が高いほど、クオリティは、技術的な視点からは低下していきます。しかし、ギターのサウンドやスタイルによっては適していることがあります。

レコーディングチェーン

Brainworx Advanced IR Technology

シンプルに“Recording Chains”プルダウンメニューからスピーカーとスタジオをセットアップを選択してください

BrainworxのオーナーDirk Ulrichは、過去20年の間にDREAM THEATER、TOTO、MICHAEL JACKSON 等をはじめとする多くのアーティストのプロデューサーやレコーディングを行ってきました。ドイツにあるBrainworx Studio(www.brainworx-studio.de)では、これまでに9台しか製作されなかったNEVE VXS 72 コンソールの1台と最高級のアウトボードEQやマイクプリアンプを用意され、レコーディングを行っています。

この素晴らしいセットアップを使用して、Friedman Buxom Bettyアンプで使用するためにカスタマイズした膨大な“レコーディングチェーン”を製作し、それをプラグインアンプの設定に使用することができます。100種類の完璧にマイキングされ、EQされたギターキャビネットを1回のマウスクリックで簡単に選択して使用することができます。

使用した各キャビネットには最大で12本のマイクを使用し、ビンテージのNeve VXSコンソールのチャンネルに接続され、マイクのミックスNeveフィルターやEQをきめ細やかコントロールされました。ファイナルミックスは、ProToolsにルーティングされ、レコーディングしています。

様々なプリアンプやEQのチェーンを新しい試みが使用されています。それは、3種類のハードウェアプリアンプとEQにスプリットしたパラレルチェーンを作成しました。このパラレルチェーンは、Neve VXSコンソール上で個別のチャンネルにルーティングされ、ProToolsでレコーディングされます。このルーティングを使用することで個々のチェーンを個別にレコーディングでき、それらを組み合わせて使用することができました。



Friedman Buxom Betty

プラグイン・マニュアル



使用したハードウェア機材:

1. チェイン: Telefunken V76プリアンプ + Massenburg GML 8200 EQ
2. チェイン: AMEK 9098 チャンネストリップ
3. チェイン: SSL 4000 Eシリーズ + ブラックEQ

多くのアンプシミュレーションは、キャビネットとマイクの選択によるインパルスが得られます。これらの不完全な設定をEQ や、異なるマイクセットアップのミックス、フェイズの調整などによって完全なものにします。しかし、これらは簡単な調整ではありません。これらを正しく設定するには長年の経験が必要となります。

アンプのチャンネルとセッティングに最適なレコーディングチェーンを選択し、トーンスタックとゲインを調整するだけです。リコールもでき、信頼性、柔軟性も高く、すぐに欲しいサウンドが得られます。

レコーディングチェーンでお気に入りが見つけれなかった場合、最後の手段(“Cabinet Bypass”とラベリングされている)使用し、その他のアンプシミュレーターのキャビネットシミュレーター、または外部のIRソフトウェアを使用することができます。このセッティングは、Consoleに1台のチューブアンプのみの音を接続します。このサウンドがより良い効果を得る場合もあります。

1 + / - スイッチ (プラス/マイナス)

レコーディングチェーンのテキストボックスのプルダウンメニューを使用するか、“+/-”記号をクリックしてレコーディングチェーンをブラウジングすることができます。

2 オート&バー・セレクション

使用する曲に最高にマッチするレコーディングチェーンを探す場合、マウスでレコーディングチェーンを選び、いくつかフレーズ弾いた後にまた次のレコーディングチェーンを探すために再びマウスを使うという煩わしい操作をしなければなりません。

その煩わしい操作を軽減するためにBuxom Bettyは、オートモードを提供しています。パターン(1、2または4小節)を選択するとプラグインは DAW のテンポにシンクし、レコーディングチェーンのオートメーションを使用できるようになります。このようにして演奏を中断することなく、いくつかのレコーディングチェーンの音を1、2、4小節ごとに自動的に切替え、試すことができます。

普段使用しているスピーカーセットアップで聴きながらちょうど良いレコーディングチェーンが見つかったら、もう一度 AUTO ボタンを押し、オート・モードを停止し、必要なレコーディングチェーンを選択してトーンやゲインを調整して音作りを進めてください。



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



1 RC Info

“RC Info”機能は、選択したレコーディングチェーンを作成するためにどのようなセッティングを使用したかを表示します。

2 インプットゲイン

Friedmanプリアンプのインプットをより強く、またはソフトにしたい場合に、お好みに合わせてインプットゲインを調整することができます。ビンテージギターのシングルコイル・ピックアップの中には、インプット・ゲインの補正が必要な低レベルのアウトプットのものもあるので、調整を行ってサウンドを得ることができます。

ヘビーメタルスタイルのハムバッカーの場合は反対です。DI シグナルが大きすぎる場合や、Friedmanアンププラグインに入力する前に他のプラグインを使用している場合は、インプットシグナルを下げる必要があるかもしれません。

一般的なギターを使用する場合、インプットゲインを“0”から始めることを推奨します。

3 プリアンプのバイパス

プリアンプセクションをバイパスします。

バイパスプリ・スイッチを使用するとFriedmanプリアンプを完全にオフにすることができます。これは、Buxom Bettyを使用しながらご使用のハードウェア・ギタープリアンプをレコーディングする場合に使用することができます。この場合でも、内蔵のパワーアンプ、スピーカー/レコーディングチェーンのシミュレーションを使用することができ、外部のパワーアンプやスピーカーを使用せずにギターサウンドをレコーディングすることができます。スイッチが上向き: プリアンプはバイパス、スイッチが下向き: プリアンプはオン

4 パワーアンプのバイパス

Friedmanプリアンプのディストーションサウンドだけを使用したい場合、パワーアンプのシミュレーションをオフにして使用することができます。ギター以外のサウンドに対し、Buxom Bettyプラグインを使用してディストーションを与える場合にこの方法は適しています。リアルなギターレコーディングを行う場合は、パワーアンプを使用した全体的なサウンドを使用することをお勧めします。

5 パワーソーク

出力ボリュームをコントロールします。

本物のパワーソークは、ギター・パワーアンプのボリュームを減らすために使用します。



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



耳を保護し、近隣に迷惑をかけない音量で、アンプがクリッピングを起こすまでチューブアンプをドライブさせて、レコーディングを行うことができます。クリッピングしたチューブパワーアンプは、ギター・アンプのシグナルに歪みや倍音を加え、多くのギタリストが好むサウンドを出力します。パワーソークによってボリュームを抑えられたサウンドは、マスター・ボリュームで同じ音量に調整した場合とは、サウンドが本質的に異なります。

Friedmanのパワーアンプの動作を忠実にモデリングしたので、アンプとパワーソークのマスター・ボリュームの異なるセッティングを試すことができます。ほとんどのケースでは、最初に-10 dB の設定で試されることをお勧めします。

レコーディングに使用したキャビネット

American 4x12

Mesa Boogie Rectifier® 4fb 280W 4x12 Vintage 30

Rectifier® 4x12は、オーバーサイズの4x12で、ローエンドのパンチとレゾナンスが得られます。スムーズなミッドレンジと美しいハイエンドが得られるサウンドは、ヘビーなサウンドのロックでもっとも人気のある4x12キャビネットです。

Friedman Buxom Betty 1x12

Friedman Buxom Betty 1x12EXT - 1 × 12" open-back extension cabinet 65W

Friedman Buxom Betty 1x12EXTは、1 × 12"のオープンバック・エクステンションキャビネットです。Buxom Bettyヘッドに最適なこのキャビネットは、ピッキングのニュアンスを確実に伝えるためにバルトバーチ材を使用し、ベース、ミッドのレスポンスの良いサウンドを提供し、Friedmanのキャビネットに期待される素晴らしいサウンドを提供します。

キャビネットの中心は、Celestion G12M-65 Creamback 16Ω スピーカーで、G12M Greenbackは、セラミックマグネットを採用した究極のギター用スピーカーです。60年代半ばにG12Mが開発されて以来、その時代を代表するようなラウドでアグレッシブなブルースロック・スタイルのHendrix、Clapton、Beck、Pageのようなギタリストに愛用されてきました。

Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



Buxom Bettyのキャビネットに使用されているG12M-65 Creambackは、ウッディーなG12Mのトーンを生み、大きなパワーでの使用も可能です。ビンテージ、モダンのどちらのトーンにとっても理想的なサウンドが得られます。大きなパワーをハンドリング可能で、ウォームなミッドレンジ、クランシーなハイミッド、スイートで洗練されたハイ、締まったサウンドのローが得られます。

他のすべてのFriedman製のキャビネットと同じように特大の12ゲージのワイヤー使用し、スピーカーとワイヤーを直接はんだで接続されています。Buxom Betty 1x12EXTは米国内でハンドメイドされ、ツアーなどの過酷な環境にも耐えうるようデザインされています。

Friedman Vintage 4x12

Friedman 412 Vintage Cabinet closed-back 110W - 2x12" Celestion Vintage 30(下段) / 2x12" Celestion Greenback G12M-25(上段)

Friedman Vintage 4x12キャビネットは、4x12"のクローズドバック・スピーカーキャビネットです。最適なこのキャビネットは、ピッキングのニュアンスを確実に伝えるためにバルトバーチ材を使用し、ベース、ミッドのレスポンスの良いサウンドを提供し、Friedmanのキャビネットに期待される素晴らしいサウンドを提供します。ビンテージ風のソルトアンドペッパー・グリルは伝説的なブリティッシュアンプを連想させます。

キャビネットの中心部には、2基の16Ω、Celestion G12M-25 Greenbackスピーカーキャビネットをキャビネットの上段に搭載しています。G12M Greenbackは、何十年にも渡って進化してきており、依然としてギターサウンドには必要不可欠なキャラクターを持っています。このモデルは、幅広いミッドレンジのアタックと落ち着いたトップエンドを提供し、まとまりのあるコードトーン、と鋭いリードトーンを得意にしており、Friedmanのハイパワー・ロックヘッドの能力を完璧に引き出すことができ、モダンなハイゲインアンプのドライブサウンドを鳴らすには理想的と言えます。

下段には、2基のCelestion Vintage 30スピーカーが搭載されています。V30のサウンドは、様々なプレーヤーにより、何千ものレコーディングで使用されています。非常に繊細で複雑な倍音、ウォームなローエンド、リッチなミッドレンジ、そして美しく響くトップエンドを備えています。このキャビネットは、表情豊かなVintage 30のクランチサウンドを提供し、ハンドワイアードのブティックアンプに見られるカラフルなサウンドを提供します。

様々なスピーカーとの組み合わせを試し、Greenbacksの持つ温もりとV30のパワーと太さがFriedman100Wのヘッドの妥協のないサウンドの出力にふさわしいと判断しました。

Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



他のすべてのFriedman製のキャビネットと同じように特大の12ゲージのワイヤー使用し、スピーカーとワイヤーを直接はんだで接続されています。BE 4×12は米国内でハンドメイドされ、ツアーなどの過酷な環境にも耐えるようデザインされています。

English 4x12

Marshall 1960TV Lead 100W 4x12 Greenback G12M-25

1960TVにはCelestion® G12M-25 Greenbackスピーカーが搭載され、これは1960A™で使用される75ワットのCelestionsよりもパワーに余裕があります。25ワットのGreenbacksはよりウォームなサチュレーションサウンドを提供します。100ワットのモノラルキャビネットは、1960A、1960B™はよりも65mm全高が高く、中域のレゾナントレスポンスが低くなります。

往年のクラシックなルックスとトーンを再現するためにMarshallは、1960TVキャビネットを提供しています。1960TVの4基のMarshall/Celestionは、25ワットのGreenbackスピーカーを再設計し、60年代後半のスタイルのECフレットクラスとスムーズなレバントカバーで仕上げられています。Marshall 1960TVは標準的な4 x 12”よりも4インチ高く、そのために“Tall、Vintage”の頭文字である“TV”と命名されています。

Friedman Dirty Shirley 1x12

Friedman Dirty Shirley opened-back 65W - 1x12“ Celestion G12M-65 Creamback

Friedman Dirty Shirley 1×12キャビネットは、1×12”のオープンバック・エクステンションキャビネットです。バルチックバーチ構造は、低域と中域のレスポンスを向上させ、Friedmanキャビネットから期待通りのサウンドが得られます。キャビネットの中心には、Celestion G12M-65 Creamback 16Ω スピーカーが取り付けられています。G12M Greenbackは信頼の高いビンテージ Celestionセラミックマグネット・ギタースピーカーです。G12Mが60年代半ばに開発された時、その時代を特徴付けるような、よりラウドで、アグレッシブなブルースロックのプレイスタイルを特徴とするHendrix、Clapton、Beck、Pageなどのプレーヤーはすぐにそれを採用しました。Dirty Shirleyキャビネットに使用されているG12M-65 Creambackは、なじみのあるウッディなG12Mトーンをしますが、より大きなパワーを処理可能です。ビンテージとモダンの両方のトーンが必要とされる今日のアンプに理想的です。増加したパワーハンドリングは、ウォームなミッドレンジを補完するローエンドを持ち、クランチなアッパーミッド、スイートで洗練されたハイを提供します。すべてのFriedmanキャビネットと同様に大きめの12ゲージのスピーカーケーブルを使用してスピーカーと端子を接続しています。Dirty Shirley 1x12EXTは、米国内で埃を持ってハンドメイドされ、ツアーでの厳しい状況での使用でも耐えるように設計されています。

Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



Orange 2x12

Orange PPC 212 クローズドバック120W 2x12 Vintage 30

120WのOrange Amplifiers PPC212-Cギタースピーカーは、多くのパワープロジェクト・キャビネット(PPC)のように13プライの高密度18mmパーティ合板を使用して作られています。Orange amplifiersのスピーカーエンクロージャーは、非常に頑丈な構造が得られる製造技術で製作されています。Orangeのユニークな“スキッド”デザインは、このキャビネットをよりステージに合うように、よりタイトなベースレスポンスとフルレンジの密度を提供します。すべてのOrange Amplifiersのスピーカーエンクロージャーには、Celestion Vintage 30スピーカーと快適なフラッシュキャビネット・ハンドルが装備されています。Celestion Vintage 30スピーカーはオリジナルのCelestion Blueのサウンドと新しいコーンとコイルのアッセンブリーを採用しています。改善された性能: 定格60W、高出力時に発生する熱を効率的に処理、Vintage 30は大量のオーバードライブトーンを簡単に処理可能です。これはクラシックな2x12ラウドスピーカーです。





Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



トップツールバー

1 Undo / Redo (アンドウ/リドゥ)

フランジャープラグインで行ったコントロールの変更を、最大32ステップでいつでもアンドウ/リドゥすることができます。セッティングを元に戻したくなった場合はいつでもアンドウを使用することが可能です。これにより実験や調整を行いやすくなります。

2 Settings (A/B/C/D): セッティング (A/B/C/D)

Buxom Betty amp プラグインは、4個の内部セッティング (A/B/C/D) があり各プリセットに保存することができます。1つのプリセットにつき、最高で4個のアンプとエフェクトセッティングのバリエーションを保存することができます。同じアンプセッティングで、ディレイの濃さ、異なるディレイタイムの設定をしたり、プリセット内でリード/クランチ/クリーンを切替えたりすることができます。

これらの設定は、ほとんどすべてのDAWでオートメーション化することができます。この方法によって、ドライなリズムサウンドからディレイがかかったリードサウンドに瞬時に切り替えることができます。

3 Copy / Paste (コピー/ペースト)

同じサウンドのバリエーションを作る場合、何度も一から音作りをする必要はありません。セッティングAのバリエーションをディレイ無しにしてBに作るかと仮定します。

- セッティング A を選択し、“COPY”をクリックしてください。
- “SETTING”セクションで B に切替えてください。
- “PASTE”をクリックすると A のセッティングを再現します。
- ディレイをバイパスして終了です。

たったこれだけの操作で A と B はディレイの有無以外はまったく同じサウンドになります。

4 FX Rack (FXラック)

FXラックとスタンダードビューを切り替えます。

5 About

プラグインの開発に関する情報の表示を行います。



Friedman Buxom Betty

プラグインマニュアル



ファクトリープリセット

Buxom Bettyアンププラグインのプリセットを多く収録しましたが、その多くは、ストラト、テレ、レスポールのようなスタンダードなギターに合わせて作られています。すべてのプリセットは、A/B/C/D バリエーションを含んでいます。ぜひ試してください。

これにより使用できるファクトリーサウンドが4倍になり、多くのアンプセッティングをフィルター設定やディレイの設定違いによるバリエーションを持つことができます。

これらのプリセットは、音作りのスタート地点を提供し、Buxom Bettyアンププラグインで作ることのできるトーンの一部をデモするために便利です。

オリジナルのサウンドとプリセットの作成

自分のサウンドを作成する時、もっとも重要な要素はドライブ、レコーディングチェーン、トーンスタック(ベース、ミドル、トレブル、プレゼンス)です。

- トーンスタックのコントロールを中央の位置(12時)に設定してください。
- ノブを変更する前に多くのレコーディングチェーンを試し、イメージにもっとも近いものを選択してください。
- 好みのレコーディングチェーンが見つかったら、トーンやドライブなどを調整し、アンプのセッティングを微調整してください。
- ディレイやフィルター、ノイズゲートなどを使用するサウンドのバリエーションも試してみてください。
- あとは演奏を楽しむだけです！

アンプのセッティングやレコーディングチェーンによる膨大なトーンの実験は、様々な音楽のスタイルやジャンルにとって素晴らしいサウンドを提供する組み合わせを提供できると確信しています。

Buxom Bettyアンプと他のプラグイン(ダイナミクス、エフェクト、ルームシミュレーション)を組み合わせると、すぐにレコーディングに使用可能なサウンドをボックス内で作成することができます。



BRAINWORX

Plugin, Rockout! - www.brainworx-music.de